

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 一宮から円座へ

(旧金毘羅街道と香東川を歩く)

講師 廣瀬和孝 (文化財保護協会顧問)

平成23年 3月13日 (日)

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 一宮町から円座町へ

一宮町

香東川東岸で、御坊川の中流域に位置しています。古代の南海道が通っていたと考えられ、讚岐一宮田村神社への道や、札所一宮寺への遍路道もある交通の要所です。

円座町

平安時代から円座（敷物）の生産地として知られ、古くはその製品を献上品にしていたということ、町名の由来となっています。

2 金毘羅燈籠と金毘羅道の道標

町内を南北に通る県道「高松く琴平線」は昔の金毘羅街道で、この街道は高松城の外堀の常磐橋を起点として丸亀町く栗林く成合く円座を経て、金毘羅に達していました。

【一宮字仲島の地蔵尊】

地蔵尊の台座石に享和元年（1801）の刻銘が見え、北面に「西は丸亀道、東は白鳥道」東面に「此方こんひら道」とあります。此処から南に折れて50歩ほど歩き、西へ向かうと金毘羅街道の近道です。

金毘羅燈籠は、文化2年（1805）の力者門弟中が奉納しています。

【上市場の金毘羅燈籠】

このあたりが香東郡と香西郡の郡境でした。南北の街道は昔の安原道で、近世年貢を運ぶ人足、牛馬や荷車が往来したものです。金毘羅燈籠は、文化元年（1804）に当初の講中が奉納しました。



【円座町字川向の金毘羅燈籠】

明治10年（1877）6月に建てられました。



【一宮町字棗股の金毘羅燈籠】

安政六年（1859）五月奉献

【香川町大野字合水道の道標】

指差し 金飛ら道

申 真鍋



指差し 右 金刀比羅道

左 仏生山道

明治九年（1876）丙子十月立之 松野三木蔵



【仏生山・一宮社道 道標】

慶応元年（1865）五月吉日



【川部町字松の金毘羅燈籠】

文政六年（1823）未春



【川部町字松の地藏尊】

寛政五年（1793）七月二十四日



【皿井出水】

「池泉合符禄」に「一、皿井水掛高四五石九斗九合二升」とあります。



【円座町字上円座の奉燈】

弘化四年（1847）未年 三月吉辰 円座惣講中



【本村の献燈】

文久三年癸亥（1863）九月

3

大禹謨碑

だいうぼ

大正元年（1912）の大洪水で、決壊した川部橋北方400メートルの堤防を復旧工事中、川底から掘出されました。

大野中津の作業員が川底数尺下に埋没していた墓石らしいものを掘り出したところ、自然石に「大禹謨」の3字を刻んだ墓石のような形状のものが発見されました。墓石だと考え、川沿いの安原道の中津にある薬師如来像の傍らに安置していました。その後、一宮に疎開してきていた平田三郎氏が昭和21年（1946）に発見、石碑を調査し、その結果寛永14年（1637）に香東川の流路一本化工事を完成させた土木技術家西嶋八兵衛の



筆跡であることが判明しました。

「大禹謨」は、中国の黄河治水に尽くした夏王朝の始祖である禹王の業績をなぞらえたもので、現在石碑は栗林公園内商工奨励館中庭に移されています。

【大禹謨】

「偉大なる禹王のはかりごと」という意味で、中国の史書『書経』に黄河の水を治めた禹王（別名文命）のことが記されています。夏王朝（紀元前2000年頃）を創設した禹王は黄河を治めるという大事業を成功させました。日本では大規模な治水事業が完成すると川の畔に禹王の碑を建てて川の安全を祈るという風習が残っていました。

【平田三郎】

戦災にあって香川郡大野村の溝口弥市方へ身を寄せていたとき、「大禹謨」碑を見つけ出



大禹謨碑

しました。明治17年綾歌郡陵南町畑田（現綾川町）に生まれ、香川県師範学校を卒業すると同校の訓導（教諭）になり、香川郡上笠居小学校の校長で転出しました。その後、香川郡の視学（教職員の監視・監督に当たった地方官）を経て高松四番丁小学校長になりました。昭和8年版の『高松市史』には神社、宗教、名勝旧跡、人物篇などの執筆を受け持ち、『一宮村史』の編集にも携わりました。

4 潜水橋

潜水橋は潜り橋、沈下橋、沈み橋、隠れ橋、潜没橋：などなど、所により人によりさまざまな呼称がつけられています。土地と同じ程度の高さとなっていて、河川が増水すれば水中に水没して通行が不能となり（橋としての機能を停止する）、減水すれば再び出現し通行が可能となる（橋としての機能を再開する）というものです。潜水橋（沈下橋）は、低い位置に架橋されることや、架橋長が短くできることから、低廉な費用で作ることができるといふメリットを持つ反面、増水時には橋として機能



潜水橋

しなくなるといふ欠点をもっています

また、需給の関係から永久橋にすることができず、架設費用及び維持管理も比較的安価・容易にできることから考え出された形式の橋です。

5 霞堤

霞堤の歴史は古く、戦国時代の武田信玄が考案したと言われています。霞堤の名前の由来は、堤防が折れ重なり、霞がたなびくように見える様子からこう呼ばれます。

霞堤は、堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を堤内地側に延長させて、開口部の上流の堤防と二重になるようにした不連続な堤防です。戦国時代から用いられており、霞堤の区間は堤防が折れ重なり、霞がたなびくように見える様子から、こう呼ばれています。

霞堤には2つの効果があります。1つは、平常時に堤内地からの排水が簡単にできます。もう一つは、上流で堤内地に氾濫した水を、霞堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害



霞堤

の拡大を防ぐことが出来ます。

6 廣旗神社 祭神 応神天皇

神域は4,983㎡ほどあり、社殿前に灯籠が整然と並んでいます。

天喜元年（1053）山城石清水八幡の分霊を勧請しての創祀と伝えられています。天治元年（1124）に拝殿を造営しましたが、天正年間（1573〜92）長宗我部勢の兵火にかかり焼失、寛永12年（1635）に再建、元文5年（1740）に修理がおこなわれました。明治15年（1882）8月、大風で社殿が大破し、明治19年（1886）8月に改築されました。

境内社に和田積神社わたつみがあり、清龍宮とも称し、祭神は高たか加お美か神み・闇くら御み津つ羽は神はです。文政年間（1818〜30）に氏子が勧請しました。雨乞祈禱に靈験があると言われています。



廣 旗 神 社

《高於加美神》

日本神話に登場する神で、みつはのめのかみ罔象女神とともに、日本における代表的な水の神です。

《閻御津羽神》

『古事記』では「閻御津羽神」、『日本書紀』では「くらみつはの閻罔象神」と記されています。

伊邪那岐命は、妻伊邪那美命が火之迦具土神を出産したため火傷して死に至ったとして、くらおかみの十拳の剣で火之迦具土神を切り殺しました。そのとき滴った血から生じた神で、閻淤加美神と併せて登場します。「御津羽」は「水の出始めを現す」事で、谷の出始めの水を司る神とされています。



廣旗神社狛犬 吽



廣旗神社狛犬 阿

【参考文献】

『一宮村史』昭和40年12月10日発行 一宮村史編集委員会

『新修高松市史』昭和39年12月15日発行 高松市史編纂室

『香川県の地名』1989年2月23日発行 平凡社

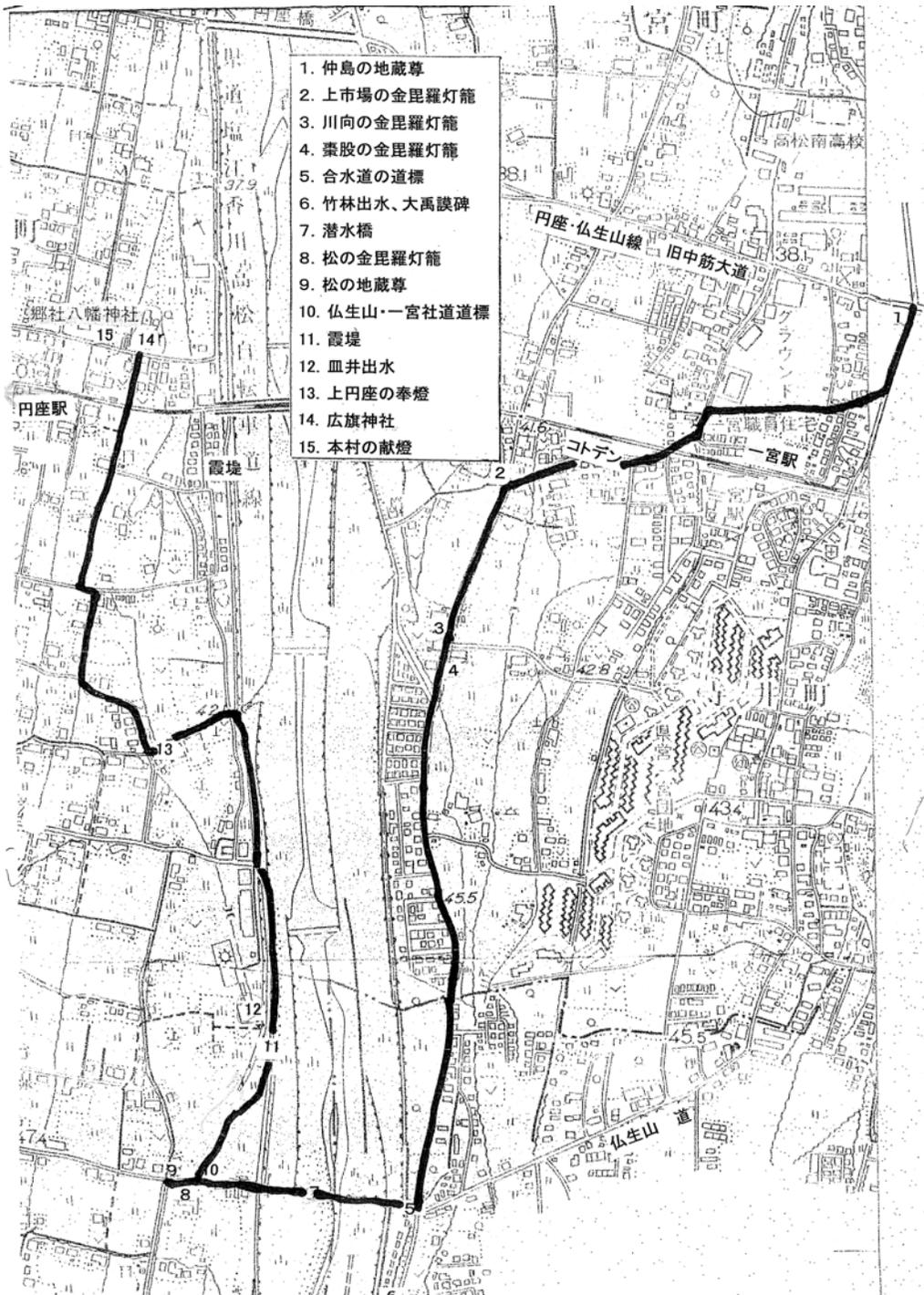
『ちいさな橋の博物館』ホームページ



和田積神社（青龍宮）



廣旗神社 隨身門



一宮 3月13日(日)

ことでん円座 ことでん築港

12:19 → 12:43

12:49 → 13:13

(次回)

木太～今里 4月29日(金・祝日)

ことでん築港 ことでん瓦町 ことでん林道

8:43 → 8:49 → 8:55

9:08 → 9:08 → 9:18



次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 木太町～今里町周辺を尋ねる

とき 平成23年4月29日(金・祝日)

第4日曜日ではありません。ご注意ください。

9:30～12:00

集合場所 高松市木太南コミュニティセンター(駐車場なし)

(木太南小の南側を東へ200m。最寄駅：琴電林道から南へと歩10分)

講師 高上 拓(市教委文化財専門員)

広報「たかまつ」4月15日号に開催案内を掲載しますので、
ご覧ください。

※天候等により中止の場合のみ文化財課(Tel 839-2660
「午前7時～開始時間まで」)でお知らせします。(電話が通じない場合は、「実施」です。)

「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょ
う。
(必ず、歩道を歩き、歩道が無いところでは、道
路の端を一行で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょ
う。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょ
う。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気
をつけましょ
う。
- 5 文化財や自然を大切にしましょ
う。